

# 全 学 府 通 信

教書大字室の學友諸君

70.6.30 東京教育大学 全学園争委員会

当局の暴力支配=恐怖政治に鉄槌を！  
処分弾圧を粉碎し、6月斗争の地平を防衛せよ！  
拓大斗争支持！合流を克ち取れ！

学友諸君！我々の斗いにともなうる教育反革命秩序の动摇を繕うべく、再び大學当局による恐怖政治が我々の前に振り下りつつある。6・13オ一波安保政策への処分の恫喝は、とりわけその先端を担つた植物科学友に対し具体化しつつある。授業を斗争の場になすことを追求し、壳ち取つた植物科学友への日々の個人的恫喝は、教育大暴力支配の実情を示し、またその責任者なるもののきテツ干あげ、との処分を理教授会はなさんとしている。更に、いかにもアルストであったとはいえ大學秩序に対する敵対としてあつた20と23ストに対しても、スト提起者あるいは主体的スト参加者への処分なるものが各教授会において審議されんとしている。曰帝の日本内政の一端である筑波研究都建設が、日々着々と具体化しつつある

6月安保斗争は、一切の田和見主義  
カンパニア主義として親共主義への斗  
争を曲に抗して、唯一、代が里学斗に  
結集する学友によつて斗われていた  
。6月オーバーストを突破口に、七月もさ  
と続く平穏なる6月へと僕達は、当中  
学年の決起によりなされていつた。そ  
して曰共・民青諸君の御祭り気分との  
リニエ、オニ波毎保政治スト、臺西を  
ついてなされた6.22教育大単独首相官  
邸云々、6.23明治公園へ結集した至日  
至日斗争反戦の数万の部隊による実  
力テモの展開は、70年代权力斗争への  
足がかりをうちたえた。いかに敵を集  
めたとしても、社共は親共主義は帝門  
主義反対の補完物として正統の主体か  
ら既に逃亡している時、我が新左翼に  
おいても若頭しつつある曰和見主義者  
を批判しつつ斗われた6月安保斗争は  
明確に、70年代階級斗争の想い手が誰  
であるかを指示したのである。

反革體制へ全面的に対決しうる組織建設と理論武装を徹底化し、ストライキ体制の形成を用意していく必要がある。ア1集会から各学部斗争体制の強化をへ拓大斗争支持・連帯のカンパを↙ 安生君虐殺を根源的向いとして出発した拓大斗争は右翼暴力団の支配を打ち碎きつつ、堅い団結を創り出しつつある。我々は拓大民主化の斗いの持つてゐる普遍的質をはつきりと受け取め、「主化」として一一致するなど、といふ民青誦君のカンパニーヤ的介入をのりこえ、真に連帯の斗いを創り出していかねばならぬ。即ち的団結の成熟は、冷戦な現実の前に向自的回紹への不可避的移行をもたらす。我々は拓大斗争を断固として支持し、あらゆる支援と連帯の行動を惜しまないであろう。既に拓大斗争は、民主化の部外的改良要求から、中曾根体制打撲体へ、即ち安生君を虐殺した拓大そのものへの告発へと深化しつつある。拓大との地区的結合を、当面拓大斗争への劇的連帯活動を媒介に。全ての学校友説君／拓大学反との目線を充ち取れ！連帯のカンパを！

中で、平穡なる教育大は進派の刊書  
「教育大の移転にとつて不可欠のもの  
があり、一切の反対者の一掃は、吾々狂氣  
じみてきている。我々はこの体制和體  
へ対決しうる主体と組織の建設をめざ  
し、田帝のアジア侵略反革命政策の実  
現過程への対決をなしつつ、帝曰主義改  
治剝体に対決しうる主体の形成を追計  
してきた。我々のも反安保斗争の主體、  
を绝对的に防衛し、一切の彈圧、处分を打  
ち取ることが、今、全ての日本斗争の主體、  
に要請されている。尾崎諸君の個別運動  
説的対決リ民主化は、その形成される  
主体が、まさに即自的であり、対自的生存  
への上向過程リ階級形成の立場が、一切  
欠落しているが故に、既に解体を開始し  
てゐる。我が全學斗に結集する全ての  
学友諸君。安保崩壊、帝曰主義政府打仆  
の斗いに決起した学友諸君！ 壓迫と隸  
屬の鉄鎖を打ち碎くべく、帝曰主義者一  
大掌当局への全般的対決を開始せよ！  
「1. 優秀幹部、帝曰主義政府打仆  
せよ！ 我々は必死あるいは奮鬥に対  
し、各教授会の團體連下あるいは教授会